

# 臨床の経験生かして治験を推進

厚生労働省医薬食品局審査管理課課長補佐  
医学部医学科平成11年卒

森岡 久尚 もりおか ひさよし



が必要です。

未承認の医薬品の有効性と安全性を確認するために、研究者や医師の力だけでなく、患者さんをはじめ多くの人の理解と協力で、実際に薬物を患者さんに投与してデータを得る「治験」という臨床試験を実施すること

医学部卒業後、大学病院の小児科で勤めていた森岡さんは、医学のバックグラウンドをもち技術系行政官として、医学の成果を制度で実現する医系技官の先輩の話聞いて、もっと大きな立場で多くの患者のためにこの思いで当時の厚生省(現厚生労働省)へ入りました。現在は、同省の医薬食品局というところで、「治験」の推進と医薬品の審査や承認を行うという仕事に従事しています。

最近では年金問題や薬害訴訟などでニュースに出ない日がないほどの厚生省ですが、森岡さんたちは、新しい薬が安全になおかつ早く使えるようにするということで、毎日10時11時と深夜まで仕事をしています。

徳島で講演



「印象に残っているのは、国民の健康保持・増進と生活習慣病予防を目的として2002年に制定された健康増進法案を作成したときですね。入省まもなくの時でしたが、先輩たちとともに半年ほど会議室に閉じこも

「いろいろな批判も受けていますが、私のまわりの人は本当にまじめに一生懸命仕事をしていると思います」

ニュースで取り上げられたときに、テレビ画面に映ることもあるそうです。

大学病院から厚生省に入ったときは、事務的な仕事ばかりで、そのギャップにとまどつたそとですが、一度臨床の現場にいたということは大切な経験になっています。

「病院で実際に人に薬を投与したデータを得る試験(治験)を経て新薬の申請がされるのですが、日本での治験の実施は欧米に比べて数年遅れています。ですから少しでも早く、うまく進むように制度を見直すのが私たちの仕事です」

医系技官は、医薬品の分野だけでなく、医療、保健、社会保障など様々な分野で政策や制度の企画・立案も行っています。

「法案作りの作業をしました」

大学に入って卓球を始め、勉強だけでなくクラブ活動も楽しみ、充実したキャンパスライフをおくった森岡さんからのメッセージは、「病院を出てこちらに来てから、医療にはその分野以外にも国内外を問わず多

方面の人や機関が医療に関わっているということがわかりました。また、医師は国際協力、環境対策など多くの分野で活躍することが求められていることを知りました。大学時代にいろんな人と出会い、たくさんの方の経験を積んでください」



トルコで学会公演